

平成28年4月の大阪森林便り



針葉樹合板生産 1月は6.3%増加

1月の針葉樹合板の生産量は、前年同月と比べて6.3%増えました。
(2016年3月3日 日本経済新聞記事から抜粋)



北米産丸太の対日価格横ばい 3月積み

北米丸太の対日価格が2か月連続で横ばい。国内の需要増に対応して現地業者が伐採量を増やしています。円安修正や原油安による輸送費の減少が、対日価格の下げにつながるという見方も。

(2016年3月4日 日本経済新聞記事から抜粋)



木造ビル可能に 大林組

大林組は2時間たっても燃えきることがない耐火性の高い木造の建築部材を開発しました。最大14階建てのビルの柱や梁に使えます。

荷重に耐える「芯」の部分に汎用の部材を特別な加工をせずに使い、鉄骨並みのコストに抑えつつ、延焼を防ぐ石膏ボードで巻くことで耐火性を高めました。

木をフル活用した「木造ビル」の建設が可能になります。

(2016年3月10日 日本経済新聞記事から抜粋)



輸入型枠合板 問屋卸値が一段安 マンション建設など低調

輸入型枠用合板の問屋卸価格が一段安。年初と比べて3%安くなっています。マンション建設や公共工事が低調に推移。1月の分譲マンション着工は8383戸と、前年同月と比べて19.2%減りました。公共工事前払金保証関係請負額は、前年同月実績を下回る月が増えてきました。

1月のマレーシアからの合板輸入量は前年同月と比べて21.4%減りました。

(2016年3月17日 日本経済新聞記事から抜粋)



木材 エネルギー利用の影で チップ奪い合い

発電所増、パルプしわ寄せ

木材を発電用燃料として使う動きが活発。木質バイオマス（生物資源）発電所が相次ぎ稼働、未利用資源活用や建設廃材の処理に一役買っています。

製紙用パルプが不足になり、価格が高騰する弊害も出始めました。

パーティクルボードは、原料のうち建築廃材が6割。バイオマス発電所の稼働増で廃材が減る懸念も。関西地区でチップの調達価格が前年と比べて2割程度上がっています。2月のパルプ原料となるチップ用の国産丸太価格は、前年同月と比べて12%高。

1950年代、木材の自給率は90%を超えていました。2002年に18.8%まで落ち込みました。2014年には26年ぶりに30%台へ回復しました。（2016年3月23日 日本経済新聞記事から抜粋）



今月の木の話 殺菌・抗菌効果

昔から木の皮で食べ物を包むけど、何か理由があるの？

昔の人はおにぎりを木の皮で包んでいました。また、お弁当箱も木で作られていました。

1930年頃、旧ソ連の科学者が、高等植物が傷つくと周囲の生物を殺す不思議な物質を出すことを発見しました。この物質はフィトンチッドと名付けられます。ロシア語でフィトンとは「植物」、チッドとは「殺す」を意味する言葉です。1970年頃にはフィトンチッドの存在が世界的に知られるようになりました。そして、植物を傷つけなくてもフィトンチッドを発散することがわかってきました。

植物には数パーセントの精油（エッセンシャルオイル）が含まれていますが、これが木の良い香りの正体です。フィトンチッドもこの精油の中に含まれていて、強い殺菌・抗菌力を持っています。

食べ物を木の皮や箱に入れるのは、木の殺菌・抗菌効果を利用した賢い保存方法です。お酒の樽に木材を利用するのも、木に防腐効果があるからです。

殺菌・抗菌効果は木の幹や枝だけではなく、葉の部分にも含まれています。柏餅や桜餅、木の葉で包んだお寿司などはこれを利用したものです。

木が食べ物を守ってくれることを、昔の人は経験的に知っていたのですね。

（社団法人福岡県木材組合連合会「木のある生活」より抜粋）